

ような問題を現出している。

① 過保護

② しつけの喪失、とりわけ、社会性
涵養におけるしつけの喪失

③ 早期からの、そして過度の受験競
争への駆り立て

さて、こうした問題をはらむ家族形態
の変容に対する教育の課題とは何であろ
うか。

① 家庭教育の再生……子どもの教育
に対する保護者の意識改革は不可欠であ
る。学校教育の問題の根の一つが家庭に
あると書いた。四角四面の校則・生徒指
導も実は、家庭教育でこそ行われるべき
しつけを学校が代行しようとすることに
由来するという側面が確かにある。基本
的生活習慣、社会生活におけるルール等
まずは保護者が家庭で教えなければなら
ない課題である。

② 受験重視教育から「新しい学力」
のための教育へ……基本的な生活習慣や
社会性の育成がおろそかにされている一
方で、過度の受験勉強を強要するのが現
在の家庭教育である。

しかし、情報化の箇所で見たとように、
時代は新しい学力を要請している。受験
重視教育からの転換を真剣に検討しなけ
ればならない時代になっている。折しも
大学の入試方法にも様々な変化が生まれ
つつある。高校入試にも変化の兆しが見
られる。このような学力観の転換を保護
者自身が理解することはとても重要なこ
とだ。

2. 21世紀に望まれ人間像

21世紀の足音が聞こえ、日本のみなら
ず、世界は激動している。上述したよう
な「変化に対応する教育の在り方」に少
しだけ光を当ててきた。学校教育の制度
そのものの問題、教員の採用や勤務条件、
人々の生涯学習支援の在り方など、考察
すべき課題はまだある。しかし、残念
ながら、紙数が尽きた。

まとめに代えて、これからの社会で求
められる人間像を記しておきたいと思う。

- ① 常に学び続ける意欲を持ち、
- ② 学ぶ方法を身につけ、
- ③ 自分の目で見、
- ④ 自分の頭で考え、
- ⑤ 自分の意見を自分の言葉で述べ、
- ⑥ 他人の意見に注意深く耳を傾け、
- ⑦ 自他の意見を比較しつつ、より正
しい選択肢を求め続け、
- ⑧ 同時に、自分以外の人間の心情や
文化に対する理解や思いやりの心を持
つ、

人間、である。

こうした人間を育てる教育のシステム
をつくるためには、保護者、教師、教育
行政関係者が知恵を絞り、協力し合うこ
とが不可欠である。

21世紀に生きる子どもたちのために何
をすべきかを検討し、できるところから
改善に着手しなければならないときが来
たようである。